

湖東三山



四季百彩に包まれた『地上の天国』

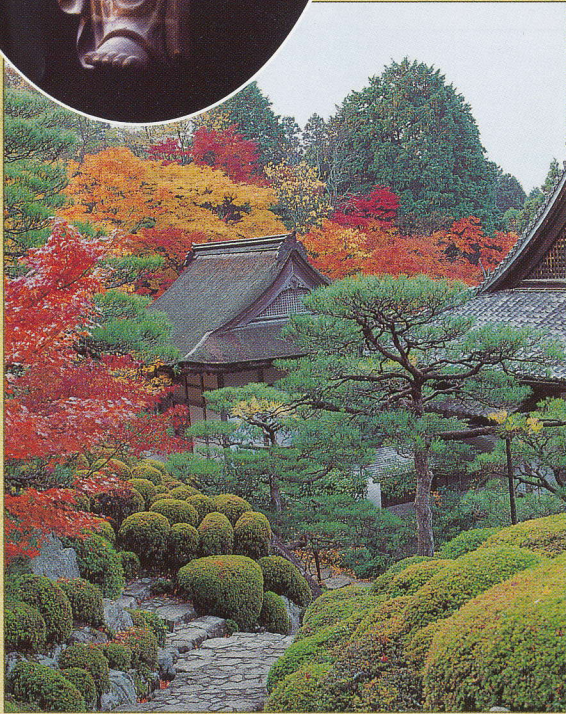
【国史跡】釈迦山

近江西国第16番札所

神仏霊場第141番札所

百濟寺

ひやく さい じ



交通のご案内

- 東海道新幹線 米原 近江鉄道 八日市 タクシー12分
ちよこつとバス
- JR東海道線
近江八幡 近江鉄道 八日市 タクシー12分
ちよこつとバス
能登川 近江鉄道バス 百濟寺本町 東1km
- 名神高速道路
八日市I.C タクシー 10分 百濟寺B.S 東2km
湖東三山スマートI.C 車8分
- 国道421号線(桑名方面より)・・・「もみじ橋」右折10分
ちよこつとバス:問合せ先 市役所交通課 0748-24-5658

百濟寺 〒527-0144 滋賀県東近江市百濟寺町323
☎(0749)46-1036 FAX.(0749)46-2096 URL <http://www.hyakusaiji.jp/>



釈迦山百濟寺 ひやくさいじ

【百濟寺の略歴】……近江最古級の古刹、1400年の法灯

当山は、推古天皇の御代に、聖徳太子の御願により百濟人のために創建された古刹で開創当時の御本尊は、太子御自作の「植木の観音」であったと伝えられる。又、御堂は百濟国の梵閣「龍雲寺」を模して建てられ、開闢に当っては高句麗の僧、恵慈を咒願とし、その後の供養には、百濟の僧を任せられた。

その後、時代は移り、平安京に都が奠められ、比叡山に天台宗が開創されると、やがて当山も天台の寺院となり、その規模は拡大され、「湖東の小叡山」と称されたほど壮大な寺院となった。「東寺観智院文書年代記近衛天皇天養元年の条」に「百濟寺号天台別院」と記されている。又、勸進帖(明応)序文に依れば「当寺一山境内を東西南北の四ッ谷に分ち、七間四面の本堂には楼門廻廊を配し、五重塔婆・常行三昧堂・阿弥陀堂・太子殿・二階堂・大聖院・五大力堂・愛染堂・長徳院・三所神殿・鐘楼・経蔵等の諸堂堂を連ね、四ッ谷の塔頭三百余坊」とあり、平安末期から鎌倉室町に至る間の当山はまことに荘厳な大寺院であった。然るに明応7年、自火により本堂附近の建物を焼失し文亀3年には、戦乱による災厄に遭い、荘厳な古建築物の多くを焼失したが、当時はなお再興し得る勢力を保っていた。当山の衰亡は、これより70余年後の天正元年4月であった。

元亀元年秋、佐々木義治等、織田信長に抗し、森備前守(その子僧となり当山南谷光浄院に住す)等、義治を奉じ、鯉江城に入るや、当山衆徒は寺内にその妻子を預り、兵糧を送り援護した為、これを知った信長の兵火により惜しくも一山悉く焼亡烏有に帰し、僅かに御本尊等数体の主な仏像と、重要な経巻類を奥ノ院西ヶ峰に遷座守護し辛じて難を免がれた。まことに有為転変の世の姿をそのままに、荒涼人影を見ぬこと10年、信長も亦、本能寺の煙と化した。これによって天正12年、当山には、堀秀政により仮本堂が建てられ、慶長7年に至って146石5斗の地を寺領として免除され、一山の坊舎もその数を増し、漸く復興に向った。その後、寛永年間には天台大僧正の高弟、亮算入寺し伽藍の再興を計り勅許を仰ぎ、寛永14年には明正天皇綸旨を下し給い、改建を勅許された。住僧等は大いに喜び、諸国に勸進し、井伊直孝朝臣御取持を以て、土井利勝・酒井忠勝・栄勝院局・春日局の喜捨を得、尚、甲良豊後守宗広より金子500両の寄進あり、慶安3年、本堂・仁王門・山門等が竣工した。これが現在の建築物である。

【喜見院の庭園】……別称『天下遠望の名園』

近江の歴史舞台を一望し、百濟国を偲ぶ「一大パノラマ庭園」

百濟寺一山、本坊の喜見院は、もと千手坊と称していたが、寛永11年、山門三院執行探題大僧正天海の高弟、亮算が千手坊仙重の後任として入寺するや、千手坊を喜見院と改めた。その後、元文元年、喜見院は自火により焼し、元文2年、仁王門の側に移転改築された。現在の建物は昭和15年、仁王門側より再度移転改築されたもので、これに伴い庭園も拡大移築したものである。

池泉廻遊式且つ観賞式で旧庭園と同様に、山上眺望の見事なパノラマ庭園であります。

東方の山々を借景とし、その山林から自然に開けた山水で、庭石は旧庭園のものを移し、更に山内の谷川から運んだ巨石を組合せて作庭されたもので、書院正面中央の池畔に置かれた平な石を「拜石」とし、その正面の溪流の源に見える巨石が「不動石」である。東の山の谷水が、この石間から流れ出て溪流となり、池に落ちて池畔の巨石や山影を写し、この池泉を廻って歩を運び、高台の「遠望台」に達すると、湖東の平野が眼下に展開し、西方55kmには「比叡の御山」に連なる湖西の山並を眺望でき、さらに西方880km先には渡来人の母国「百濟国」を偲ぶことが出来る。

● 聖徳太子願文

遠聞=我寺名-
近拜=見寺塔-
往経=一宿-輩
必生=一浄土-

● 飛鳥井雅親

生れあはん
便りをきけば此寺の
一夜もかりの
やどりならずよ
(重槐集巻九)

歴史を語る、文化財の数々

古仏像

- 本尊 木造十一面観世音菩薩立像 1軀 奈良時代
- 木造聖観音座像 1軀 明応7年
- 木造如意輪観音半跏像 1軀 明応8年
- 金銅弥勒菩薩半跏思惟像 1軀 奈良時代
- 木造阿弥陀如来座像 1軀 鎌倉時代

文化財

- 本堂 唐破風付入母屋造 1棟 重文(慶安3年)
- 本坊 喜見院書院 1棟 登録文化財
- 絹本着色如意輪観音像 1幅
- 絹本着色黄不動像 1幅
- 絹本着色日吉山王神像 1幅 重文
- 紺紙金泥妙法蓮華経入黒漆蒔絵函 1合 重文(応永16年)



- 紺紙金泥妙法蓮華経 10巻 県指定
- 金銅唐草文磬 1面 重文
- 金銅孔雀文磬 1面 応永25年
- 銅鐸・鉦子 各1具 重文(建長8年)
- 錫杖 1具
- 信楽焼壺(舍利容器) 1個 鎌倉時代
- 絵馬(馬図) 2面 天正17年
- 石曳絵馬 1面 桃山時代
- 三十六歌仙屏風 1双 桃山時代